

能登大地震

現地で何が起きていたのか
過去の教訓は生かされたのか

1月5日～9日

2024年1月23日（火）

緊急オンライン企画「能登半島地震から考える原発と避難」

第1回

ジャーナリスト 藍原寛子

経験・取材した災害

- 1978年 宮城県沖地震 (小学生)
- 1995年1月 阪神淡路大震災
- 2005年8月 ハリケーン・カトリーナ
- 2005年10月 ハリケーン・ウィルマ他、06年まで複数のハリケーン
- (2007年7月 中越沖地震)
- 2011年3月 東日本大震災と福島原発事故
- 2024年1月 能登半島地震

インフラ、建物の崩壊

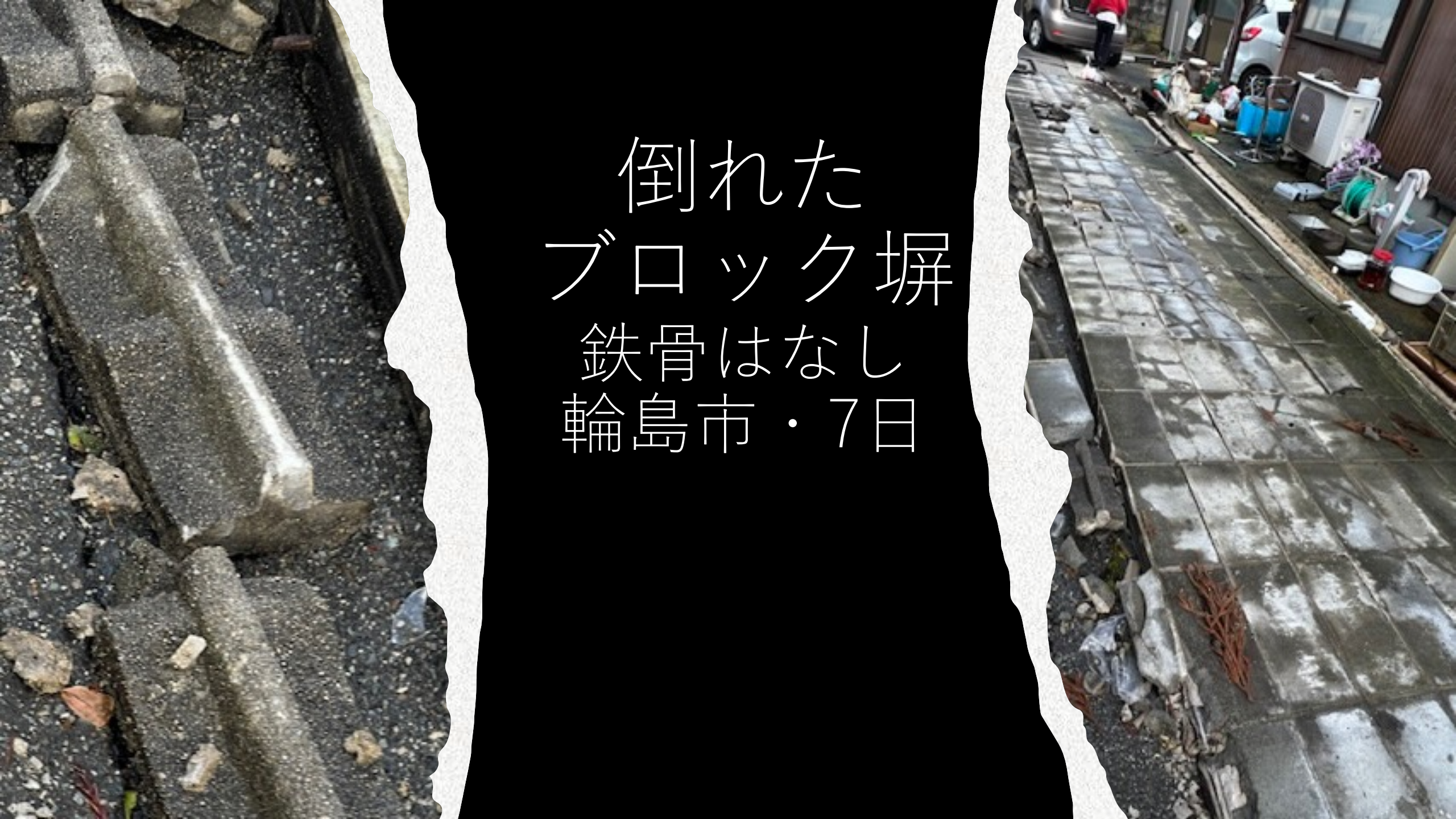
- 弱い道路（縦クラック）、少ない迂回路。防災計画、避難計画の実効性に疑問：災害時は双方向の動きが求められるが、中から外へ避難できない、外から中へ物資が運べない
- 断水継続 地震直後から～。現在も奥能登の孤立集落などで断水
- 建物の崩壊：震源地の珠洲、輪島の木造民家 正月で親戚が集まっていたところに直撃 耐震化されていない
- 1978年宮城県沖地震（建物、ブロック塀倒壊）→81年建築基準法施行令大規模改正（新規制基準）→阪神淡路、東日本大震災
- 特に奥能登、輪島は観光地、古い街並みが観光資源でもあった



穴水町 道路沿いの民家（木造）倒壊 6日



1階が潰れて倒壊木造家屋多数→2階や屋根近くに空間
輪島市 7日



倒れた
ブロック塀
鉄骨はなし
輪島市・7日

遅れた初期対応：人

- 国際NGOや過去に災害対応の経験のある団体や自治体応援（DMAT、日本赤十字、関西の救急隊・消防など）は初動が早かった
- 自衛隊も現地（避難所）で活動していた。（私見だが、311よりは少なかった）
- 市民ボランティアの姿はほとんど見なかった。初めて見たのが、輪島高校避難所での炊き出し。しかも日本在住の外国人（温かいミルクティ）その後、うどんなどの炊き出しも
- 「渋滞が起きる」「ボランティアはいくな」の言説と「自粛警察」：渋滞は起きていたか？
- ボランティアがいることの意味（「集合知のミツバチ」として）
- メディア間での情報交換は活発

石川縣立輪島高等学校

輪島高校体育館に初めて来た炊き出し 7日朝



宮城県警 広域緊急特別捜索隊 7日



遅れた初期対応：物資、援助、救助

- 富山県氷見市：停電はなし。断水が続く。道路損壊などの災害の跡。避難所も設営された。しかし7-11は24時間営業。5日は飲食店は断水、限定メニューで紙皿での提供→9日までには通常営業に戻る
- 中能登の七尾市：停電はなし。断水。7日ごろから物資が多数届く。避難所にはトイレトラック、空自の風呂。民家損傷
- 奥能登入り口の穴水町：民家倒壊多数。避難所に通信回線車あり、物資も徐々に到着
- 奥能登輪島市：中心部は建物倒壊壊滅的。取り残された人多数。救助犬を使った捜索中（6日～）人、モノ、救援全てが足りない

避難所で配布されたペットボトルの災害備蓄
用保存水 = 大阪府からの支援



断水の影響（断水型の災害） トイレ問題

- 飲食の問題ー水が飲めない、健康影響、まさか避難所で「エコノミー症候群」ペットボトルの水の救援（大阪市から輪島市へ）
- 衛生面の問題発生ートイレが使えない、手が洗えない
→感染症（コロナ、インフルエンザ、ノロウイルス）
ウエットティッシュ、消毒薬はあったが
- 依然として密集型、体育館型の避難所。土足で上がる体育館避難所も
- 風呂にも入れていない。一人に1個のウエットティッシュもない
- 自宅避難者ー水がなくノロウイルス感染疑い多数→具合が悪くなっ
てから行政などに相談、避難所で過ごす（避難所にDMATの看護師
らがいるため）
- 社会的弱者（障害者、一人暮らし高齢者）の中には車中泊も



航空自衛隊による風呂の提供（七尾市中島小学校）7日～

政治、社会、歴史、地理的要因

- 1947年公選制導入後4人しか公選知事なし（長期政権）：柴野（2期）▽田谷（2期）▽中西（8期・30年11期在職死亡＝全国最年長記録）▽谷本（7期＝全国最多期数）→県民、住民が意思表示する場としてのガチの選挙が少ない、結果として民意反映が薄い
- 加賀一向一揆。流刑地（江戸時代加賀藩・五箇山の流刑小屋）
- 内灘闘争：米軍射撃場、基地反対運動（内灘町HP）
- 北陸全般に同和問題（部落差別）
- 原発立地計画（珠洲市）反対運動で白紙化 関西・中部・北陸電力
- 日本の地方都市同様、高齢化
- 「半島問題」：下北半島や福島と同じで、中央政府から見ると「周辺化」された地域→政府から冷遇、保守化→保守化への抗い、人命人権を獲得しようと住民闘争も行われた→住民運動へさらなる圧力

* 公選知事については毎日新聞記事参考

ショックドクトリンが起きやすい状況

- 災害直後で避難所では多くの人々が疲労、脱力、寡黙
- 人々は親切、温和。取材撮影などもOK
- その一方で、大災害のショック状態、過酷な環境に忍耐、諦め
- 「自然災害だから仕方ない。みんな困っている」
- 富山県氷見の人「石川は大変」→中能登の人「奥能登の人はもっと大変だから。まだいい方」→奥能登の人「東日本大震災の人はもっと大変だった。まだいい方」
- みなさん「東日本大震災の時は、被災者は大変だなと見ていたが、まさかこんな大きな地震が起きるとは」「東日本大震災で被災した人の気持ちがわかった」「『大変ですね』と言ってもらえることがこんなにホッとすることだったなんて思わなかった」

雑魚寝の避難所 七尾市中島小学校 8日



避難、避難所の課題

- 自宅倒壊、家族取り残され、一人暮らし、移動手段なし
一避難しない、できない
- 自宅避難、車中泊、夜だけ避難所、物資だけ避難所
- 厳しい避難所運営：正月の災害で市職員ら招集されたが彼らも被災者＝外部からの交代要員、運営支援が必要
- 昨年5月にも地震があったがダンボールベッド、ダンボール衝立、テント、寝袋などの備蓄はされておらず
- 最低3日間の緊急物資は？水、クラッカー、毛布、医薬品…
- 東日本大震災の教訓：病気の人、障害の人、子ども、女性スペース、ペット同伴、ダンボールベッド、プライバシー、トイレ問題、感染症予防

生かされない

過去の震災、災害の教訓、初動の遅さ、人災の発生

- 宮城県沖、阪神淡路、東日本大震災の教訓はどう伝えられ生かされているか
- 初動の遅さ = 現場の民家倒壊の現状を見れば生存者が取り残されているのがわかる
- 避難所運営の課題、災害関連死初めて6人、今後も増える可能性（人災）
- 陸路中心だが道路インフラ崩壊。海路、空路の活用不十分で物資、燃料等不足一大問題
- 「ボランティア来るな」の一方で、道路補修は進まず。物資配達や情報発信をする人手不足 = 犠牲になるのは被災者
- 今も命の危機に瀕している人が多数、救援はいくらあっても足りない。救済はいいからあってもいい。もういらぬですと言われれば救済救助の体制を→多数の目で見ている中から、外から課題論点を発信すべき
- ワーストシナリオを厳しく見積もるべき（年末年始、極寒期、大雪、大雨、台風）
- 感染症などの複合二次災害想定、人災の極みである原発事故想定

ご清聴ありがとうございました